

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）

2011年12月7日発行 SSKA 増刊通巻第7447号

SSKA

ああるぴい

RP三重支部会報第15号

—◇ はじめに ◇—

今年3月11日に勃発した東日本大震災は未曾有といわれるほどの惨禍をもたらしました。地震による津波の程度の高さと被災地域の広範さ、そして引き続き発生した原子力発電所の事故は多くの人を犠牲にし、また、避難を余儀なくさせています。RP患者も例外ではありませんでした。一命はとりとめたものの避難所における厳しい避難生活と今後の生活の再建を思うとき、誰も絶望的な感慨を抱かざるを得ません。

しかしながらこのことを教訓としてとらえ、自助、共助を目指していきたいものです。

目次

1. 新春交流会のお知らせ
2. いつも楽しい秋の交流会 川瀬せいよし
3. 秋の野外交交流会を終えて 佐藤 好幸
4. ストーリーテリングに出会って 雨窪 美紀
5. 人生！！初の嬉しい銅メダル！！ 伊藤 和子
6. RP 三重 会報誌によせて 小川 明美
7. 平成23年度東海・北陸リーダー研修会に参加して 木村 靖子
8. 歩行訓練 桜井 将人
9. 視覚障害者のよりよき理解のために 佐藤 好幸
10. ☆私の旅日記-九州編 加藤 多
11. ニュージーランド氷河ヘリハイク 宮本 忠
12. 平成23年度RP三重総会議案書

平成23年12月吉日

会員 各位

日本網膜色素変性症協会三重支部
支部長 河原洋紀
住所：松阪市岩内町614
電話：0598-58-2664
Eメール：hk2664@aqua.ocn.ne.jp

平成24年 RP 三重 新春交流会のご案内

師走も残すところ僅かとなり 何かとあわただしい毎日ですが 皆様お元気にお過ごしでしょうか。

さて 恒例の新春交流会を今年度は 鳥羽で開催し また2月には、スキルアップ講座を 津市で下記のような日程で開催いたします。宿泊新春交流会は初めてです。

地元 鳥羽で ゆっくりと 一泊して 私たちの RP 協会のこと また 毎日の生活のことなどを話し合い 交流と親睦を深めたいと思います。

初めてご参加のかたも 参加してよかったとの思いでお帰りいただけるように企画したいと思います。皆様ふるって ご参加ください。

1. 宿泊新春交流会

- 期日 平成24年1月22日（日曜日）23日（月曜日） 一泊二日
- 行先 鳥羽市 相差 一井旅館
相差町千鳥ヶ浜 電話 0599-33-7555
- 日程 22日 午後1時30分 伊勢市駅前世義神社前 集合
マイクロバスにて2時30分 一井旅館到着
3時から 交流研修会
テーマ よりよき RP 活動とは
5時から お風呂 6時から8時まで 懇親会
23日 朝食後 石神神社まで 散策 その後のスケジュールは検討中
午前11時 近鉄鳥羽駅にて解散
- 会費 10000円。
- 申し込み締め切り 1月10日までに地区役員までお申し込みください。

2. スキルアップ研修会

- 期日 平成24年2月18日（土曜日） 午後1時30分から 3時30分
- 目的 同行援助などの制度改革の改正にとמונau 学習会
- 講師 未定
- 場所 三重県津庁舎 難病支援センター
- 申し込み締め切り 2月8日までに地区役員へお申し込みください。
よろしく願いいたします。

なお、地区担当は下記のとおりです。

県北部の女性会員 伊藤和子 059-379-0071
kazuito@mecha.ne.jp

県北部の男性会員 佐藤好幸 0594-31-4041
yoshiyuki5110911@yahoo.co.jp

津・亀山地区 加藤 多 0598-23-2954
masakato@topaz.ocn.ne.jp

久居一志・伊賀地区 桜井将人 090-3389-5598
mogu_dream@ybb.ne.jp

松阪・飯南地区・紀勢地区 辻本和仁 090-6765-5739
motpin44@amigo2.ne.jp

伊勢・度会・多気地区 木村靖子 0596-52-0811
yasuko-k@triton.ocn.ne.jp

志摩・鳥羽地区 小川正次 0599-43-2523
sanryoin@poplar.ocn.ne.jp

- 詳しいことのお問い合わせ先 小川副支部長
- 当日の緊急連絡先 090-7696-7499 (河原支部長)
- 新春交流会への便利な電車

桑名方面からは、近鉄宇治山田行急行が便利です。

桑名 11:42, 四日市 11:55, 若松 12:07, 白子 12:12, 津. 12:23, 中川 12:37, 松阪 12:44
伊勢市 12:58 到着

今回は、準地元の桑名名所旧跡散策という事で、少し張り切っていました。
我が家から桑名中心街までは、車で30分、マツチ箱電車で45分のところに有ります。
買い物、貝取り、花見、子どもの小さい頃はよく市営プールへ行きました。
今回の散策の場所は初めて遊びに行く所が沢山あり、
「あー、桑名にもこんな歴史が有るんだ」という事を知りました。
皆さんも少しは歴史の勉強を楽しく出来たかと思えます。
桜の咲くころは九華公園へ花見に来てください。きれいな事、保証します。
食事交流会の時は、多数の方から差し入れを頂き、満腹になりました。
ありがとうございました。
最後に今回のコースを計画して頂いた役員の方、ご苦勞をかけ、ありがとうございました。



役員のみなさまのおかげを持ちまして桑名での交流会も無事に終わりました。

下見で歩いた時には、かなり時間もかかり 1 2 時に公園に到着できないのでは？と少しコースを短くと考えました。

さらに駅からのスタートが少し遅れてしまい三八市もゆっくりしたい人も見えたようですが先を急いでいただきました。

諸戸倉庫や外堀のあたり、そして住吉神社あたりで、思いのほかはかどっていることもわかり、少し落ち着いてきました。

七里の渡し跡や桑名の町割りをした本多忠勝の銅像、そして護国守護神社、更に私も初めておとずれた本丸跡の天守閣の石積みも説明いただき桑名のお城近くのめぼしい所はほどほどに歩いていただきました。

これも皆様のご協力と歴史の案内人さんのおかげだと思いました。

交流会では 1 時間で時間が不足するのではとっていたのですが、自己紹介や近況報告も 20 分足らずですんでしまい、小川さんの鼻笛や川瀬さんの桑名の殿さんなどの、歌により彩をそえていただき、更に河原さんの新薬の紹介などにより、それなりに楽しく充実した 1 時間を過ごさせていただきました。

帰りも歴史の案内人さんの説明により、春日神社を参拝し、石取り祭りのこともそれなりに説明いただきよかったなと思いました。

また帰りは市内循環バスで桑名駅まで帰ろうと予定していたのですが歩いて帰ると言っていた体力、気力充分な皆様にはびっくりしました。

さて新春交流会では 2 時間の話し合いの時間を設定しました。

実りある話し合いするためには、どのような内容と運営にしたらいいのかなと思いました。

天候と皆様のご協力により、それなりに交流会を終えさせていただきましたが、本日の率直な私の反省点です。

なんだかだらだらと書いてしまいました皆様ご協力ありがとうございました。

ストーリーテリングとは絵本も紙芝居も見ないでリスナーの目を見て世界や日本の昔話をする事を言います。

私たちはこのグループを立ち上げ、その会の名前を「ふわりんこ」と名付けました。

この RP 三重の会員さんも 3 名ほど含まれています。

ふわりんこは先日、ある保育園へお話し会に行ってきました。その保育園へは 8 度目のストーリーテリングでしたが、何度経験しても家を出るときは膝の上に孫を抱き、頭をなげながら優しく語る、お婆ちゃんの姿を想像しながら落ち着いて、自然体に語れたらいいなと思っていたのに、時間が近付くにつれ、子供達が聞いてくれるような語りができるかな？つまったり、間違えたり、しないだろうかと緊張が増すばかりで、いつもの場所でいつもの時間に、メンバーと待ち合わせ、いつもの喫茶店でコーヒーを飲み、気持ちを落ち着かせ、保育園に向かいました。

園庭で遊ぶ子供達の「こんにちは」と元気な声に迎えられ、5 歳児の部屋に案内されました。部屋に入ると、園児用のちっちゃな可愛い椅子が準備されていて、私達お婆さんの、大きなおまんじゅうの様なお尻をはみ出しながら、ドカンと座り、園長さんからメンバー紹介された後、いよいよ、お話し会が始まりました。

5 歳児になって、初めてのお話し会だったのですが、数ヶ月前、4 歳児だった時より、ずっと、お兄ちゃんお姉ちゃんになって、よくお話しを聞いてくれ、もじもじしながらも耳を傾けてくれている子、「どうして…。う～ん。へー。」少し、歌が入れば同じように歌ってくれる子が居て、あんなにガヤガヤしていた子供達が、こんなに聴く力が持てる様になるなんて、子供達の成長を感動しました。

お話しを通じ温かい心、温もり、少しでも感じてもらえれば嬉しいなと言うより、私達が子供達からパワーをもらい、前に進むエネルギーをもらったように思います。子供達の純粋な素直な心に触れ、心癒され、園長さんから次回もぜひと言われ、喜んで帰ってきました。

ふわりんこ、名のように、ふわふわとゆっくり未熟な私達ですが、一步、一步進みこれからも続けていきたいと思えます。

先日は松阪の小学校 4 年生の教室へも初めてゲストティーチャーとして招かれて行ってきました。

このストーリーテリングに出会い、私たちでも人のために何かが出来ると言うことの喜びを感じ、今後も続けていきたいと思っています。

人生！！初の嬉しい銅メダル！！

鈴鹿市 伊藤 和子

爽やかな秋晴れの中、何年ぶり？の、ゴルフに参加！して来ました。
この催しは、毎年この月日に開催されているとの事です。
2011 年度・第 17 回ザ・チャレンジドゴルフトーナメント 厚生労働大臣杯・・・全国身体障害者ゴルフ大会が、11 月 2 日、3 日と、津カントリー倶楽部で行われました。
11 月 2 日・ ザ・チャレンジド・親睦チャリティコンペ & 前夜祭。
3 日・ 第 17 回 ザ・チャレンジドゴルフトーナメント。
私は、昔、昔！20 年ほど、クラブ（道具）を、振りまわして体力づくり、芝生の山を駆け巡り、体力維持をしていました。と言うよりしていたつもりかな？
視覚障害が進んだので、ここ数年クラブとはさよならしていたのです。
このような企画があるのを、3 月ごろに、Kさんから教えてもらった事がきっかけで、受付にもれない様にとあちらこちらに問い合わせ電話したりで、8 月末に募集有り、受付済ませてからは、昔の感覚を思い出すように、社協へ相談、ガイドさんをお願いして、九月・10 月と 2 ヶ月間、練習に出掛け、少しでも感覚を取り戻せたらいいなと、そんな思いで練習場や、コースに時々出向き、練習！
その中でも、この大会の開催場所の、津カントリー倶楽部の深いバンカーの多さには、ビックリでした。余りの多さにバンカーの数を、キャディさんに尋ねたら、何と！ 全部で 72 個有るとの事で、どこから打ってもバンカーに吸い込まれるかのように難しいコースです。頑張っってバンカーから出す練習にはなったような？（苦笑）当日付き添って下さるガイドさんも、「今ここがこうなっていたからこんなふうにボールが飛んだのよ」とか、一生懸命に、なっていて下さっているのが、つたわって！私は、頑張らねばと、力が入るんだけど、そう上手くいかないのが人生！山あり、谷あり、崖っぶちあり！かな？
Kさんも、初心者ゴルフ教室・スナックゴルフの受付済ませて練習に・・・
それに、先日開催された「あいふえすた イン 松阪」三重県視覚障害者福祉大会で、少しお話をさせてもらった Mさんは、この大会に過去 6 回ほど参加されていると言われて居られました。
なんか身近に知り合いになれたようで、安心感で、ホッとした気分・・・
長年思っていたことが実現！ようやくこのような大会に初参加と繋がりました。
私は、2 日の前夜祭にも参加しました。皆さんコースを回った人やら、前夜祭だけの人やら、県外のかたたちで、賑わい、立食パーティーで、沢山のチャリティオークションなども行われ、18 時 30 分の閉会。
いよいよ 3 日！津カントリー倶楽部へ 7 時前に到着するように、ガイドさんと共に、車に乗り込み「とうとうこの日が来ました 宜しくお願いします。」と、6 時に家出。6 時 45 分頃には、会場の、津カントリー倶楽部に到着。
受付済ませて、朝食。
7 時 30 分オープニングセレモニー・選手宣誓。
8 時ショットガンスタート。私たちのカートにキャディさんは三重大大学のゴルフクラブの 3 年生の方が二人ついてくれました。
私は OUT スタートの 5 番からパシッと第 1 打！！
ナイス！の声と、共に良い音がした！気分良く飛んでくれた！かな？と、感じながら、2 打目は

どこに飛んだ？とガイドさんに聞きながらのプレー！、パターも方向を見てもらい、どれだけの距離！上り下り！の強弱を、言ってもらってその様に私が上手く打てればOKなんだけどねー。少しの強弱！微々たる方向の違いで、ナイス！か、アリヤー！の、答えが出る。

午前の部は、練習した甲斐有ってか？バンカーにもあまり入らず、私なりに上手く成績がまとまったかな！？午後バンカーをすり抜けて、上手くまとまりますようにと、願いながら昼食をいただきました。

午後のスタート、気合入れて、パシッと打ったつもりがアリヤー！音が悪い！私のボールはどこに？深いバンカーに！はまっている、一打罰で出したが、なんとなくこのホールは調子が出ない！次のコースへ移動、一息入れて気合をいれ直して、何とか調子を整えて、上手く打てますようにと、念じながら最終コース（18ホール）を終える事が出来ました。

スコアは、out 58 in 57 = 115 自分なりの まーまーの成績で満足！・・・付き添っていただいたガイドさんと共に感激！

15時30分・・・大会表彰パーティー始まり

開会、来賓挨拶

大会名誉顧問の川崎二郎（元厚生労働大臣）

大会名誉会長 鈴木英啓（三重県知事）

プロゴルファー。 衆議院議員、 県会議員。

学生ゴルフ。 他 沢山の応援の方々

乾杯

部門別表彰式

- ※ 聴覚 ※ 視覚→（全盲）（弱視）
- ※ 下肢体 ※ 上肢
- ※ 片麻痺 ※ 内

私は、視覚障害（弱視）の部門で、三位で銅メダル！名前が呼ばれて ビックリ！最初は信じられないような？ガイドさんに手引きしてもらって、壇上に上がって首にメダルを掛けてもらって、席に戻ってしばらく感動！そうこうしている間に眼には、うるうる嬉し涙が、ひとりでににじんで、少し恥ずかしかったかな？

年齢を考えるとね・・・ 笑い・・・

出席者 岩手県から熊本県まで・・・

男子 79名・・・ 女子 5名・・・計 84名

成績が部門に細かく分かれて表彰なので何か うれしいですね、男子は飛距離が違うから、男女も分けてもらえると、なお良いが女性の参加が（全国で 5名）少ないのでこれはむりかな？

閉会式 無事終了

久しぶりのゴルフにしては、まーまー上出来かな？と、自分なりに納得（笑い）運良く上手く成績もまとまり、楽しく過ごせました。

こんな嬉しい気分になれるのも、ガイドさんのMさんが、このゴルフの付き添いを、快く引き受けてくださったおかげです。

感謝です。ありがとう。

RP 患者として、自分が自分の病気に気が付き対面して、もう40数年が経ちました。50年に近づきつつあります。いくらか視力のあった頃よりも、今の方がケガをしなくなった・何事にも恐れなくなった・恥ずかしがらなくなった・出歩くことが多くなった・楽しいことが多くなった・友達もたくさん出来たという、「ええ？ 嘘！」 また、「そんなことあるの？」と不思議そうに言う人もありますが、ほとんど視力のなくなった今現在の方が気楽に暮らせるようになったと言えば強がってるように感じられる人も多いのじゃないかと思えます。

視力のない・見えない私でも、我が家では主婦としてしなければならないことはそれなりにしています。それらを全く出来ないのじゃないかと思っておられる人も多いのじゃないでしょうか？

今の福祉の手助けを受け入れることにより、全て快適に暮らせると言うことはありませんが、日常生活にはほぼ不自由なく暮らしています。たとえば、生活に必要な食料品や医療品、日常雑貨などの買い物はガイドヘルパーさんの手助けを受け買い求めることが出来ます。

また、通院・会合・習い事・友達との交流のためのお出かけもガイドしてもらい出かけることが出来ます。そして、ボランティアさん達の手をお借りして、歩かせてもらったり遊びに連れて行ってもらうことも出来ます。そしてホームヘルパーさんには家事援助として、手紙の読み書き・整理など、また家の内外の掃除や大きなゴミを集積場まで出してもらうことなどもしてもらえます。このように日常生活に必要なほとんどのことはヘルパーさんのお手をおかりして不自由なく暮らすことが出来てます。

いくらか視力があり見えているはずなのに「見えない！」「失敗ばかりしていた」そんな頃のほうがつらかったと思い出しています。私の場合は、小学校へ入学するまで、自分の目が悪い・周りの人たちよりも見えてないと言うことに気が付きませんでした。周りのみんなと同じだと思っていたのです。

「空の星を每晚見れば視力が回復する」と言われ、母は仕事に疲れた体で夜遅く寒い外へ私を連れ出し夜空を見せてくれました。「見えた」と言うまであきらめないで、どこに星があるのかさえわからなくても・見えていなくても、見えたようなふりをして布団に潜り込んだことを思い出します。

私たちの村の近くに名医が来ると聞けば連れて行き看てもらいましたが、私の視力は快復することはありませんでした。

学校ではドッチボールや雪合戦などが恐ろしかったことを思い出します。また、薄暗いところではほとんど見えてませんでしたから失敗ばかりしていました。

そんな義務教育期間を終え、同級生が高校へ進学するようになって、私には行くところがありませんでした。それで、当時の市議員さんのお情けにより、市議員さんの経営する家具店に勤めさせてもらえるようになりました。

そこでも、やっぱり暗いところや細かいことが見えなくなり失敗ばかりしていました。それでもそこで5年間勤めさせてもらうことができました私と同年齢の仲間が寿退社・習い事をするために退職していくにつれ、私もいたたまれなくなり退職しました。退職しても私には行く当てもなく、何をしたいと言うこともなく、和裁を習い始めましたが、糸目が見えなくてあきらめてしまいました。私の不器用さも重なっていたと思えます。

その頃通院していた眼科医院でお手伝いとして勤めさせてもらえるようになりました。そこで2年間過ごさせてもらった頃、院長先生が私の将来を案じ盲学校を紹介してくれました。そのころ

の私は盲学校へ私の年齢になつてからでも行くことが出来ることを知りませんでした。院長先生は病院で朝夕働きながら通学することをすすめてくれましたが、私は盲学校の寄宿舎へ入ることを希望しました。

盲学校へ入学し、私の今までが一転しました。

見えないがゆえに、周りの人たちからお情けを受けたり・いたわってもらわなければ生きてこれなかった私に、私にでも出来ることがあることを知りました。誰にも遠慮することなく対等につきあえる友達も出来ました。勉強も居眠りしながらでも友達に助けってもらったり・教えてもらいながら、鍼灸マッサージ師としての資格を得ることも出来ました。義務教育時の体育の時間には参加できなかった球技も・マラソンも・ダンスも・運動会にも参加できるようになりました。その学生時代に知り合った今の旦那様とも結婚し子供を産むことも出来ました。その子が親になり私たちに孫を抱かせてくれました。

私たちの一人息子が小学4年生頃になった頃、私の視力はほとんどなくなっていました。隣近所の奥さんや息子の友達のお母さんに買い物に連れて行ってもらったり、息子の習い事にも連れて行ってもらうことが出来ました。忘れ物をタクシーの運転手さんに教室まで届けてもらったこともありました。周りの人たちに親切にしてもらったり・助けてもらって、これまでを過ごしてきました。

今では、近所の施設へマッサージの奉仕治療に行ったり、学校へ視力障害者のことを理解してもらうための福祉学習に参加させてもらうことも出来るようになりました。私が小学生・中学生の頃人前で何も話せなかったことが嘘のようです。

そして、三重県の視覚障害者の一人として、いろんな行事に参加させてもらったり、RP患者の一人として、いろんな行事や海外旅行にも連れて行ってもらうことが出来るようになりました。私がこのように同年齢の人たちよりも自由に出歩き・遊び歩いていられるのも視覚に障害があり・健康でいられるから、障害者年金をいただいたり、夫が働いてくれ経済的にもそれなりに恵まれているからだと思っています。三重県の女性部の一役員として、全国盲女性研修大会に参加させてもらったり、東海地区リーダー研修会に参加させてもらうことにより、たくさんの人たちと知り合うことが出来るようになりました。また、メーリングリストで全国の人たちとも交流を図ることが出来るようになりました。

見えないから必要な機器・器具・便利グッズに囲まれ暮らしています。たとえば、音声ガイド付きのパソコン、読み取り機・時計・携帯電話・体温計・体重計・血圧計・計量器などなど・・・最近では、視力障害者のためのサピエ図書館が解説され、インターネットを利用し、自分のお好みの朗読図書を自由に選択し聞くことが出来ます。テレビにも音声ガイドの付いてる番組も多くなりましたが、それでもテレビよりも朗読本の方がより理解しやすいので、小さな録音機をポケットに入れ、イヤホンを耳に入れて家事仕事をしています。これは注意力緩慢、その内に痛い目に遭いそうです。気をつけなきゃと思いますが、今まで出来なかった読書の楽しみをとりもどすかのように朝から晩まで聞き入っています。最近では、「下町ロケット」「疾駆する夢」「大地の子」「二つの祖国」「ラストプレゼント」などなど、いろんな本に夢中になってます。

福祉もいろいろ変化し、これからどのようなになるかがわからない面も多々ありますが、障害があっても暮らしやすい社会になっていくことを望んでいます。

今年の研修会は愛知支部の担当で、10月22日（土曜日）と23日日曜日）の二日間、名古屋の国際センタービルを中心に行われました。

三重県からは会長の河原洋紀さん、副会長の小川正次さん、総務の佐藤好幸さんと理事の私の4人でした。見えない役員ばかりなので、肥留間俊治さんにお手伝いをお願いしました。

名古屋駅に着くなり、静岡支部の役員さんと合流して、「三重のカルガモ軍団がやってきた」と比留間さんが先頭で4人が連なって歩く姿を見て笑ってくれました。これが何時もリーダー研修会に臨むスタンスです。

近鉄急行で名古屋へ。桜通り線で一駅の国際センター前で下車。

3階会議室で講演を二つ聴きました。

名古屋市総合リハビリテーションセンターの田中雅之先生から「歩行訓練の話」というテーマにてセンターを利用される頻度と利用される内容別のパーセンテージなどを話して頂きました。東海光学株式会社による「遮光眼鏡の話」で遮光めがねとサングラスの違いや個人によるその人に合っためがねを選ぶべきである。との話を聞きました。

これらの講演を終えると楽しみの夕食の場所に移動。同じ国際センター内の26階にある「東天紅」という中華のお店でした。24階と、司会からの案内であったのだがミステイクで本当は26階だった。そこで混乱してしまい少しパニックとなった。けれど25階に上がり、そこからはエスカレーターで会場に到着した。

テーブル席で中華料理と言うことで次々と出てくる料理を分けるのが大変だなあ、と思っていたところ、お店の人が取り分けて下さると知ってホッと安心。お腹一杯頂きました。一人一人のスピーチがありとっても良い雰囲気のもとにお開きとなった。

比留間さんは6階。男の人たちは4階。私は3階と別れ別れで、それでシングルルームだったので不安に感じましたが、岐阜県の女性の方が私の部屋の前とその横だったので移動するときには、声をかけて頂くようお願いしたので安心しました。

2次会はホテルの右隣の「こやこや」と言う所でしたが飲み物とつまみが出て雑談をして10時に部屋にもどりました。

次の日の朝食後、昨日の国際センタービルに移動しようとしたら、かなりの雨が降っていたので岐阜の方に傘に入れてもらって地下道を歩いて移動しました。我が県の男性はタクシーで移動したようでした。

二日目は4階の会議室で班別に分かれて座りました。

JRPS本部理事であり副会長の河原さんの「JRPS本部現況報告」と、網膜基金理事の小出本部理事の「網膜基金現況報告」の二つを聞いた後、グループ討議でした。

グループで思い思いに話し合った後グループでの話し合いの様子や結果を代表が発表し合いました。テーマは1、支部活動について今後の課題。2、QOLについて。3、JRPSと網膜基金のとの位地づけについて。を話し合った。

私は第1班でしたが発表者に指名されたので、困ったなあと思ったけれど昨日からお世話になっていた岐阜の方から「年の功やなあ。上手にまとめてくれた」と言って頂き嬉しく会議を終了しました。

来年は三重県の担当です。喜んで頂けるような案を考えてお迎えしたいものです。

私は、数年前から、河原さんから「アイパートナー」を紹介してもらい、月1回自宅まで、訓練士がきてもらい、歩行訓練をしています。

冬の寒い時や、アイマスクをしての訓練や、イオン系のデパートや、青少年の森での訓練などなど、大変な訓練でしたけど、白杖をなんとか、正しく使えるようになりました。

夜でも、一人で自宅の近所のコンビニやスーパーへ行けるように、なりました。

そして、慣れた所であれば、多少遠くても、一人で行けるようになり、精神的に楽になりました。

さらに、好奇心旺盛な私は、勢いは止まらず、北海道、東京、大阪へ一人で旅行へ行ってきました。

盲人になっても、こんなに、行動が広がったのも、「アイパートナー」の歩行訓練士さんの訓練のおかげです。心より感謝です。

現在も訓練は続いており、パソコンのキーボードのブラインドタッチを、挑戦をしています。

これからも、訓練を頑張りますので、よろしくお願いします。

わたしは 1年に2度か3度小学校の福祉授業に参加しています。

授業では自分の目の病気や 日常生活などとともに アイマスクでの視覚障害者体験による障害者理解の促進に 参加しています。

授業の中で、今までに どんな こわいことを体験しましたかとか お子さんはみえますかとか、また 点字は読めますかなどの ごく普通の質問は受けたことがあります。しかし 仲間からは 御飯は 一人で食べられますかとか、お金は数えられますかなどの質問を時々受けると聞いたことがあります。

視覚障害者は目が見えないことから 何も出来ないと思われているのではないかとよく話題に登ります。

また一方 視覚障害者は 目が悪くなった分だけ 耳が発達し 匂いを嗅ぐ力も鋭くなり 風の動きで 人の気配も感じるようになるらしいですね、などと大人の人から 真面目に聞かれることがあります。なかには そんな感覚の鋭くなる人もみえるようですが、しかし、私などは 視力の低下とともに 聴力もしいに 衰えてきており 勘も鈍くなって来ています。

加齢とともに 鈍くなってみえる人の方が多いのではないのでしょうかなどと話しています。

このような誤解は、多分 勝新太郎の「座頭市」や 木村拓哉の「武士の一分」の映画による影響もあるのではないかと考えていました。

ところが 先日 小学校の福祉授業の折に 各児童に配布されているという副読本を読んでもらったところ こんなことが 書かれていました。

視覚障害者は 点字ブロックや 音響信号の音楽 車の騒音を頼りとして外出し 街角の喫茶店のコーヒーの匂いやパン屋さんのパンの匂い さらに お店のアナウンスのスピーカーの音 自動販売機のモーターの音などを 手がかりにして 街歩きをおこなっていること。

さらに また 街角では 建物などでの 風の向きを手がかりにしてさっそうと 外出しているというようなことが書かれていました。

私にすれば外出は 苦勞の連続で そんなに なまやさしいものではありません。先ほどの感覚が鋭くなるとの 大人の話とともに 大いなる誤解ではないかと思いました。

何も出来ないと言うのも 問題ですが、仙人のように 何でもできるという 両極端の理解もなんとかは是正できないものかと 思いました。

日々 苦勞しながら 毎日を暮らしている私たちの実像に近い姿をもっと理解していただき、お互いが助け合える 共生の社会を作るためには どうしたらよいのかを考えていきたいものです。

今春東日本大震災の大災害に大騒ぎしている時に、どさくさにまぎれて新しく開通した九州新幹線「さくら」で、新大阪から鹿児島中央まで利用した南九州の旅を満喫してきました。新幹線「のぞみ」よりも顔の長いこの九州新幹線「さくら」は実に快適な乗り心地でした。というのも、一般指定席であっても2列×2列シートのグリーン車並みの座席で、ゆったりとくつろげる感がありました。妻も快適な空間が満足してくれたようで、ほとんどの間快い眠りについていました。走行時間は4時間と10分。意外と時間が軽やかに進んでいった。

始発から終点まで新幹線に乗るのは、初めてで列車の旅が昔から好きな私はわくわくしどおしでした。楕円形の窓を過ぎていく景色が以前乗った「のぞみ」と同じなのに何かしら新鮮な感じがして、車窓を楽しんでいました。

列車といえば駅弁！さくら乗車記念の「さくら弁当」を楽しみにしていたのですが、残念ながら新大阪には売っていないとのこと。九州に入ってから楽しみとなった。

快適な旅は関門トンネルを過ぎ、九州ゾーンに入った。「のぞみ」ならこの頃になると、そそくさと降りる準備にかかるのですが、今日は違う。博多駅で3分ほど停車した後、九州ゾーンになる。なぜか感激している自分。九州はもちろん初めてではない。修学旅行では特急に乗り換えガタゴトゆられながら目的地に向かう。ましてや鹿児島に向かうときは苦痛なほど時間がかかる。しかし今日はあと1時間程度で鹿児島中央駅に着く。感激以外なにがあらうか！

新幹線の恩恵を十分に浴びて、鹿児島に到着。鹿児島は今回で3回目の訪問だ。薩摩の国、島津家の領地であったこの地は、前方に錦江湾が広がり中央にどっしりと鎮座する桜島があり、西郷隆盛や大久保利通のような偉人を輩出した場所でもある。観光地としては、仙巖園・城山公園・いおワールドかごしま水族館・指宿温泉などが挙げられるが、今回はあまり訪れていない場所をレンタカーで見学した。

まずは眼前にそびえる桜島を目指す。鹿児島港からフェリーで15分桜島港に到着。錦江湾から眺める桜島の勇姿は、薩摩男子のいごっそうさを表す堂々とした風景であった。

桜島観光センターを訪ね、桜島を一周し始めたとき、「ドドン」という地響きとともに山の中腹から噴火が始まった。黒い煙がモクモクと立ち上り、真っ白な火山灰が霧のように視界をさえぎってくる。噴火した直後に見学できたのは、なんとラッキーだった。しかも後でニュースで知ったのだが、この日の桜島の噴火は7回を数えたという。しかし、考えてみればこの火山灰が空を舞って鹿児島市内に降り注ぐことを思えば、逆にアンラッキーだったかもしれない。

周囲52kmは時間として1時間弱でまわられた。有村溶岩展望所で噴火を見て、黒神神社の埋没鳥居を見学した。3mの鳥居がほとんど灰で埋没していて、大正3年の噴火の物凄さを感じた。

夕食は、市内繁華街である天文館のど真ん中の宿で、歩いて行ける居酒屋を紹介してくれた。鹿児島と言えば黒豚。そのしゃぶしゃぶを食べ、薩摩の芋焼酎を飲み、キビナゴの刺身やさつま揚げをたらふく食べ、満足いくゆうげであった。いつも私は夕食を地元のおいしい店を宿のフロントで聞くことにしている。地元の人が行く本当の美味しい居酒屋やレストランを聞くのだが、まずほとんどが間違いないと言える。お土産にかん・黒糖ドーナツ・スイートポテトンなどをかう。一杯やって帰る道すがら、可愛い店員さんに声をかけられるとついつい買っちゃった！笑顔に弱い性分なのか？

次の日は霧島神宮に向かう。土佐の坂本竜馬とお涼の日本で最初の新婚旅行地と言われる霧島は、鹿児島から2時間余りで着いた。門前町としてにぎやかだった頃を感じさせない静かな寺

社のたたずまいであった。ちょうど 1 日であったことで神社では「ついたち礼拝」行事が行われていた。ただ残念なことに本殿は修理中で、仮本殿での参拝となったが、厳かな雰囲気は伊勢神宮同様、威厳ある社殿と環境ででした。

その後、霧島神話の里公園を訪ねたが、ここは思いもよらぬ素晴らしい景観が見られた。ふもとからまずは列車バスに乗り（ただシュシュポッポという園内バス）、リフトに揺られ、ついたのが頂上展望台。そこから見渡す雄大な山々は霧島連山（高千穂岳・中岳・新燃岳）、南は錦江湾・桜島まで見ることのできる。天気にも恵まれて素晴らしい景色に魅了されました。久しぶりの風景感動でした。

その後、昨年度改修を終えたばかりの熊本城本丸御殿を訪れ、豪華絢爛たる襖絵・室内装飾・昭君之間など見学した。ここでは白杖の利用や車椅子での見学ができ、安心して鑑賞できるスペースであった。

翌日長崎県に入り、歴史と自然の中で人々は恩恵と災難を両方受け入れて生活していかねばならない現実を見た。それは、島原半島にある普賢岳(今は雲仙岳ともいう)火砕流・土石流大災害である。時速 100 キロというスピードで迫る火砕流を体験できる雲仙岳災害記念館では、ビデオによる生々しい火砕流や土石流の映像が見られ、その轟音と地響きを体験できる体感コーナーなど、1990年11月に始まった平成噴火・1996年の噴火終息宣言まで、この地で何が起き、そして、何が残ったのか。自然の脅威と、災害の教訓を、風化させることなく正確に後世へ残すための資料館です。噴火が始まってあっという間に 1000 度近い煙にのまれ跡形もなく人間が焼失する。恐ろしい自然の力強さにどうしようもできない憤りを感じた。また近くには、その土石流によって 1 階部分が埋まってしまった家屋が展示されている。今の今まで生活していた場所が一瞬のうちに地獄絵図のようになってしまう。まるで東北の津波だと錯覚するほどであった。ただ、大きな違いは、亡くなった方が 43 名ということだ。これは、噴火の災害に備えて避難していた住民と予測できない高波にのまれていった住民との違いだった。備えあれば憂いなし。九州は何度来てもいろいろな発見ができる。おいしい郷土料理と広大な自然を満喫するにはもってこいの場所といえる。ぜひとも九州新幹線で旅してみてください。

以上

JRPS 三重の会員 3 名を含む 10 名が、本年 3 月 14 日、フォックス氷河村にレンタカーで、午後 3 時過ぎに到着。翌日、三重オーストラリア・ニュージーランド協会第 10 回親善交流旅行のメインテーマである、氷河ハイキングを行うためである。ヘリハイクつまりヘリコプターを利用して氷河をハイキングするのである。

直ちにヘリハイク準備のために、フォックス・ヘリハイク営業所訪問。早速、受付のお姉さんに「高齢者や視覚障害者でも、氷河ハイキングできるのか？」と僕。「歩くことができれば、問題はありません。ガイドが一人付きます」。さらに僕が質問「食べものはどう？」。「ビスケット程度のものならいいが、食べる余裕はないでしょう」と、笑いながらお姉さん。いずれにせよ、‘あした天気になあれ！’。

夕食の前に、実施委員長の K さんと食堂の様子を視察に行った。居酒屋とコーヒーショップが営業していた。居酒屋近くの登山口駐車場から、聳え立つ山の頂上に氷河がちらちらみえる。氷河から流れ落ちる川の音がゴウゴウ、聞こえる。小雨が振り出した。夕暮れと重なり暗くなってきた。明日の天気は大丈夫だろうか？

18 時。みんなで居酒屋で夕食。山の居酒屋は、大勢の人でにぎわっていた。

モーターの屋根を激しく叩く雨音で目が覚めた。寝台の枕元の棚にある腕時計に手を伸ばす。まだ夜半だ。夕方からふっていた雨が一層強くなってきた。ヘリハイクのお姉さんが言った「ここは雨がよく降ります。悪天候だとヘリは飛びません」。そんな言葉が耳から離れない。眠れぬまま、どのくらい経ったであろうか。だんだん小ぶりになってきた。眠くなってきた。と同時に「これだけ降れば、今朝は晴れる」という予感がしてきた。

旅行 5 日目 15 日。

朝、ヘリコプターや小型飛行機の快音が僕を叩き起こした。やったあ、晴れた。氷河観光フライトのヘリコプターが飛んでいるにちがいない。

ヘリハイク営業所へ。たくさんの人でごった返している。待合所に、フォックス氷河の大きな写真が掲げられ「みなさんを、氷河にガイドすることは私たちの誇りです」というプレートが付けてある。中年の男性が話しかけてきた。「日本は地震と津波で大変ですね。日本にいるご家族は大丈夫ですか」。この旅のさなか、ニュージーランド人から、‘見舞い’の言葉を、この旅行中、あちこちでかけられた。

正午過ぎ、バスに乗って 10 分ほどで、ヘリ・ポートに着いた。以前に来たときよりヘリポートの整備が進んでいた。建物の中で注意やアドバイスが始まった。「ハイキングは、雪、アイスバン、クレパスの世界。ガイドに従うように。また、ヘリの発着時には爆音と風圧が強いから注意すること。声は届かない。手で合図する。いまは晴れていて風もないが、天候は絶えず変わる。ヘリで氷の平原まで行き、皆さんを下ろし、ヘリはまた迎えに来る。ハイキングは、約 2 時間半。

歩行は、そんなに難しいものではない。楽しんできてください。Good Luck!」。そして氷河用の、かかとや足首を保護するための登山靴合わせ。室内を歩いてみる。少し重い、足首とかかとの部分が締まって身も引き締まる思い。はいてきた靴を、ロッカーにしまう時「白杖をどうしよう?」と思案した。結局、ハイキング現場まで持って行くことに決めた。氷河ハイキングの現場にトイレはない。2時間近く氷の山にいる。ここで出るものは出しておかねばならない。

大きなエンジン音を響かせているヘリへ。私たちグループは二つに別れ乗ることになった。ヘリ内の重量バランスをとるために、事前に全員の体重チェックが建物内であり、それによって座席が決められた。僕とグループ3人は、残り6人とは別々のヘリとなった。6人組みが、バリバリバリと爆音を立てて、太陽に白く輝く氷河の山に先発した。

係員の丁寧な手助けを受けて、ヘリに乗り込んだ。後部座席に大柄の白人二人が座り、前に、僕と体重の軽い仲間の女性三人が座った。シート・ベルトを閉め、大きなヘッドホンを着けた。ヘッドホンは、パイロットの案内用と爆音防止用らしい。だが、案内はヘリの音に遮られ、途切れ途切れしか聞き取れない。Tさんが大声で、飛んでいるヘリの窓から見える山々の雪景色などを説明してくれるのだが、視覚障害者の僕には、Tさんの説明が、爆音と重なり、イメージ化できない。

そうこうしている間に氷原に着いた。慎重にヘリから降りる。相変わらず晴天。見渡す限り氷の世界なれど、不思議なことに、暖かい。われわれが乗ってきたヘリは、ものすごい爆音と爆風を残して直ぐにとんぼ返り。‘真っ白な雪と氷と静寂の風景’といたいだが、遊覧飛行機の飛行音や氷河やいたるところにあるクレパスを流れる雪解け水が聞こえる。われわれの到着を待っていた若いガイド嬢・アマンダが「ウエルカム(ようこそ氷河へ)」と第一声。「どちらから?」。「ジャパン」と僕が応答。「みなさん、私の英語、わかる?」とピッケルとアイゼンを、一人ひとりに配った。アイゼンは、滑り止めのために、登山靴につける金具。靴の底にくくりつけて用いる鋼鉄製のスパイク。ピッケルとアイゼンを併用することにより、氷の上を歩くとき、滑落を防ぐ。

アマンダがわれわれの道をつくりながら先頭に行く。頻繁に振り返り、ときには手引きしながら。私たちはでこぼこの氷上の一筋の道を、慎重に続く。道は一夜の嵐である日には無くなっていることもあるという。

坂を下る途中アマンダが立ち止まった。そして、マスクをしているTさんに尋ねた。「どうして、マスクなんてしてるの?ここには、ポリューション(大気汚染)なんて、ないよ。「いやー、これ日焼け止めよ」とTさん。爆笑。「私が日焼け止めを持っている。みんなつけたら」とアマンダがクリームを出した。オーストラリアの紫外線は強烈。皮膚癌が多いという研究があり、政府も対策を採っている。

サラサラと水が流れている。遠くに滝に落ちるような水音もする。アマンダ「ここからはっきり見えないが、西の方向に、タスマン海。そう遠くないところに、ニュージーランドの最高峰のマウント・クック(3,754メートル)やマウント・タスマン(3,497メートル)の山々が聳えている。マウント・タスマンまではここから15キロメートルほどよ。だけど、歩いては行けない。マウント・クック。正式名称は、アオラキ/マウント・クック。アオラキは、先住民であるマオ

リ語で、‘雲に聳え立つ’を意味するという。1991年11月14日に、頂上部が崩落して10メートル低くなったと聞いた。参考までに、富士山の海拔は、3,776メートル。

「南方の、直ぐ近くに見える山までは4キロ・メートル。今日、そこまではゆけない。私たちが立っているこの地点は、とても貴重な位置です」。彼女の話が続く。「本日は天気晴朗。ここは、1年のうち、雨が200日、こんな晴天は珍しいのよ」と言ったとき「わあ、すごい」、やったあ、ばんざーいと仲間の大歓声。さらにアマンダ「日焼け止めは、ほとんど必要ないが、きょうは必要ね」。「ラッキー！」女性群、満面に笑み。

昨夜は、怖いくらいの土砂降り（ドシャブリ）で、多くの仲間は、雨天を予想していた。ここで小生が提案。「アマンダはすばらしいガイドさん。お礼に日本の歌をプレゼントしよう。歌のタイトルは‘富士山’。マウント・フジは、日本の最高峰。コーラス担当のKさんの指揮で大きな声で歌おう」。ニュージーランドのフォックス氷河の山に元気な日本語の歌が響いた。

「サンキュウ、サンキュウ。」と、うれしそうにアマンダ。「この水は飲めるよ。つめたくてきれい。飲んだらいいよ。無料だからね」にこにこして、一同かわるがわる飲む。「ああ、冷たい、おいしい」と歓声・感激。アマンダが付け加える。「水以外のものは捨てないで」。さすが、ニュージーランドのガイドさん。

ハイキングは、さらに続く。「きょうは暖かい。氷が溶けている。あちこち勝手に歩きまわると危ないからね」アマンダはアドバイスを忘れない。彼女にサポートされながら、幅30センチほどのクレパスを、一人ずつ、おそろおそろ、あるいは飛ぶように渡る。そんなに奥深いクレパスではないというが、ちょっとした勇気が要った。「こんな経験、なかなか出来ない。来て本当によかった」と、視覚に障害のあるIさん。

クレパスから登りになった。アマンダは、スコップで氷をけずり、階段をつくって行く。われわれは、ただ、それを感心しながら見守るばかり。

氷の階段を登ったところに氷の洞窟があった。入り口に大きなツララが何本も出来ている。ツララの先から水滴がポトリ、ポトリ。その奥に10メートルほどの氷で出来た洞穴があるという。アマンダがツララをスコップで叩き落とした。穴は狭く、天上部分が低い。奥には大きなクレパスがあるという。数人ずつ背をかがめて、入った。両手を氷の壁に触れながらゆっくり進んだ。この氷の青白いブルーの洞窟は、2週間ほどで溶けて崩れるそう。ときに天井から水滴。クレパスを流れる水音。出入り口付近の氷の天井は、青空に溶け込んで、とても表現できない、透きとおった、えもしれぬライトブルー。以前に見た氷河ハイクの氷の洞窟体験の感激と重なった。これぞ、大自然が織りなす、氷と太陽の美の傑作。

午後4時前、全員が満足してモーテルに帰った。

第16回R P 三重総会議案書

第1号議案. 平成22年度事業報告

- ① 設立15周年事業としてレティナ オーストラリアとの交流と親睦を深めました。
- ② QOLの事業を行い会員のスキルアップにつとめました。
- ③ 各種団体が行う交流会などに参加しました。
- ④ 地域で相談会を行いました。
- ⑤ 三重大学の倫理委員会に参加しました。

| 月 日 | 用 件 | 場 所 | 参加人数 (会員) | 付き添い 等 |
|----------|----------------|------------|--------------|-----------|
| 4月1日 | 難病相談 | 難病センター | 支部長 | |
| 4月19日 | 研究倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 4月23日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 4月25日 | SCD 三重の総会での挨拶 | 津県庁舎 | 支部長 | 1名 |
| 4月28日 | NPO法人三重難病連の理事会 | 難病センター | 支部長 | |
| 5月2日 | オーストラリア旅行の説明会 | 松阪本町公会堂 | 34名 | |
| 5月2日 | 役員会 | 松阪本町公会堂 | 8名 | 2名 |
| 5月16日 | 膠原病の総会での挨拶 | 津県庁舎 | 支部長 | 1名 |
| 5月23日 | JRPSの運営会議 | 東京 | 支部長 | |
| 5月24日 | NPO法人三重難病連の総会 | 難病センター | 支部長 | |
| 5月25日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 5月30.31日 | JPAの総会 | 東京 | 支部長 | |
| 6月1日 | 難病相談 | 難病センター | 支部長 | |
| 6月12日 | 代議員会 | 東京 | 2名 | |
| 6月14~20日 | 設立15周年記念旅行 | オーストラリア | 29名 | |
| 6月15日 | 中日新聞より激励金の授与 | 津市 | 1名 | 1名 |
| 6月21日 | 研究倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 6月25日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 6月27日 | 定期総会 | 松阪市福祉会館 | 53名 | |
| 7月4日 | 地域相談会 | 四日市市 | 2名 | |
| 7月11日 | JRPSの運営会議 | 東京 | 支部長 | |
| 8月2日 | 研究倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 8月10日 | 難病センター運営会議 | 難病センター | 支部長 | |
| 8月27日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | |
| 8月31日 | 難病相談 | 難病センター | 支部長 | |
| 9月5日 | 地域相談会 | 伊賀市 | 支部長 | |
| 9月17日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 9月19日 | 歩行訓練 | 産業振興センター付近 | 3名 | |
| 9月19日 | 研修会(プレクストーク) | 本町公会堂 | 10名 | |
| 9月19日 | 役員会 | 本町公会堂 | 6名 | |

| | | | | |
|-----------|-------------------|--------|-----|----|
| 9月24日 | 難病センター運営委員会 | 難病センター | 支部長 | |
| 9月25.26日 | 世界網膜の日(研修旅行) | 京都 | 29名 | |
| 10月3日 | 地域相談会 | 熊野市 | 支部長 | |
| 10月4日 | 研究倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 10月10日 | JRPSの理事会 | 盛岡 | | |
| 10月12日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 10月23.24日 | 東海北陸リーダー研修会 | 羽島市 | 7名 | |
| 10月26日 | 難病相談員研修会 | 難病センター | 支部長 | |
| 11月3日 | 秋の交流会 | 斎宮 | 37名 | |
| 11月7日 | 地域相談会 | 松阪市 | 支部長 | |
| 11月19日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 11月26日 | 難病相談員研修会 | 難病センター | 支部長 | |
| 11月27日 | 全国難病センター研究会 | 東京 | 支部長 | 1名 |
| 11月28日 | 難病フォーラム | 東京 | 支部長 | 1名 |
| 12月5日 | JRPSの運営会議 | 東京 | 支部長 | |
| 12月6日 | 研究倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 12月14日 | 難病センター運営委員会 | 難病センター | 支部長 | |
| 12月14日 | NPO法人三重難病連の理事会 | 難病センター | 支部長 | |
| 12月17日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 1月21日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 1月22日 | JRPSの運営会議メンバーの研修会 | 東京 | 支部長 | |
| 1月23日 | JRPSの運営会議 | 東京 | 支部長 | |
| 1月29.30日 | JPA東海ブロック交流会 | 大府市 | 3名 | |
| 1月30日 | 新春交流会 | 四日市市 | 39名 | |
| 2月3日 | NPO法人三重難病連の理事会 | 難病センター | 支部長 | |
| 2月7日 | 研究倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 2月10日 | NPO法人三重難病連の理事会 | 難病センター | 支部長 | |
| 2月13日 | JRPSの理事会 | 東京 | 支部長 | |
| 2月18日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 3月2日 | 宇治先生へのお礼と他 | 三重大学 | 2名 | 2名 |
| 3月5.6日 | 支部長会 | 横浜 | 支部長 | |
| 3月18日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 | 支部長 | 1名 |
| 3月25日 | 難病センター運営会議 | 難病センター | 支部長 | |
| 3月25日 | NPO法人三重難病連の理事会 | 難病センター | 支部長 | |

第2号議案. 平成22年度決算報告

収入の部

| 項 目 | 細 目 | 予算額 | 決算額 |
|-----------|---|---------|-----------|
| 本部より支部支援金 | | 50,000 | 50,000 |
| QOL 対策費 | | 20,000 | 20,000 |
| 総会(参加費) | 500円×40名 | 15,000 | 20,000 |
| 総会(弁当代) | 1000円×44名 | 30,000 | 44,000 |
| 総会(懇親会費) | 3000円×20名 | 80,000 | 60,000 |
| 新春交流会参加費 | 4000円×35名 | 120,000 | 140,000 |
| 難病センターより | | 80,000 | 80,000 |
| 寄付 | | 70,000 | 76,880 |
| 雑収入 | 中日新聞より130000円、 京都旅行参加費634000円 共同募金他 | 90,000 | 810,003 |
| 合 計 | | 555,000 | 1,300,883 |

支出の部

| 項 目 | 細 目 | 予算額 | 決算額 |
|----------------|-----|---------|-----------|
| 役員行動費 | | 120,000 | 89,740 |
| 総会の印刷費 | | 3,000 | 5,657 |
| 総会の通信費 | | 3,000 | 1,745 |
| 総会の講師謝礼等 | | 80,000 | 78,850 |
| 会場使用料等 | | 25,000 | 26,380 |
| 総会の弁当代 | | 10,000 | 12,200 |
| ボランティア交通費等 | | 30,000 | 49,000 |
| 懇親会費 | | 80,000 | 60,000 |
| 三重難病連の会費 | | 20,000 | 20,000 |
| 会報の印刷費 | | 4,000 | 1,782 |
| 会報の通信費 | | 1,000 | 4,664 |
| 新春交流会の印刷費 | | 1,000 | 0 |
| 新春交流会の通信費 | | 2,000 | 0 |
| 新春交流会の講師の謝礼等 | | 10,000 | 5,610 |
| ボランティア交通費等 | | 10,000 | 12,680 |
| 新春交流会の食事代 | | 100,000 | 147,256 |
| 勉強会での講師謝礼等 | | 25,000 | 35,000 |
| 勉強会のボランティア交通費等 | | 5,000 | 0 |
| 事務費 | | 10,000 | 12,126 |
| 京都旅行の費用 | | | 710,230 |
| 予備費 | | 16,000 | |
| 基金積み立て | | | 27,963 |
| 合 計 | | 555,000 | 1,300,883 |

基金積み立ての部

| | |
|---------------|---------|
| ①平成22年3月31日現在 | 117,655 |
| ②三重オーストラリア協会へ | 110,000 |
| ③今年度基金積み立て分 | 27,963 |
| 合計①－②＋③ | 35,618 |

第3号議案. 平成23年度事業計画 (案)

| 月 日 | 用 件 | 場 所 |
|-----------|-----------------|------------|
| 4月23日 | 合同研修会 | グリーンパークホテル |
| 4月15日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 |
| 4月18日 | NPO三重難病連の理事会 | 難病センター |
| 4月22日 | 病院倫理委員会 | 三重大学 |
| 4月26日 | 難病相談 | 難病センター |
| 5月19日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 |
| 5月20日 | NPO三重難病連の総会 | 難病センター |
| 5月29.30日 | JPAの総会 | 東京 |
| 6月21日 | 臨床倫理委員会 | 三重大学 |
| 6月26日 | 定期総会 | 松阪市福祉会館 |
| 6月27日 | 病院倫理委員会 | 三重大学 |
| 7月10日 | 桑名地域難病相談会 | メディアライブ |
| 7月17日 | JRPSの理事会 | 東京 |
| 8月9日 | 難病相談 | 難病センター |
| 9月11日 | 歩行訓練 | 松阪 本町公会堂周辺 |
| 9月18日 | 尾鷲地域難病相談会 | 尾鷲県庁舎 |
| 10月16日 | 鈴鹿地域難病相談会 | 鈴鹿県庁舎 |
| 10月22.23日 | 東海北陸リーダー研修会 | 名古屋 |
| 10月25日 | 難病相談 | 難病センター |
| 11月3日 | 秋の交流会 | 北勢地域を予定 |
| 11月5.6日 | JPA 東海北陸ブロック研修会 | 湯の山 |
| 11月20日 | 伊勢地域難病相談会 | 伊勢トピア |
| 1月10日 | 難病相談 | 難病センター |
| 1月22.23日 | 新春交流会 | 南勢地区を予定 |
| 3月27日 | 難病相談 | 難病センター |
| 3月、日は未定 | 役員会 | 未定 |

第4号議案. 平成23年度予算(案)

収入の部

| 項 目 | 細 目 | 金 額 |
|------------|------------|---------|
| 本部より支部支援金 | | 50,000 |
| QOL 対策費 | | 20,000 |
| 総会(参加費) | 500円×30名 | 15,000 |
| 総会(弁当代) | 1000円×30名 | 30,000 |
| 新春交流会(参加費) | 15000円×30名 | 450,000 |
| 難病センターより | | 80,000 |
| 寄付 | | 70,000 |
| 助成金 | 共同募金などから | 80,000 |
| 合 計 | | 795,000 |

支出の部

| 項 目 | 細 目 | 金 額 |
|-------------------|-----------|---------|
| 役員行動費 | | 96,000 |
| 総会(印刷費) | | 3,000 |
| 総会(通信費) | | 3,000 |
| 総会(講師謝礼等) | | 80,000 |
| 総会(会場使用料等) | | 25,000 |
| 総会(ボランティア交通費等) | | 10,000 |
| 総会(弁当代) | 1000円×30名 | 30,000 |
| 三重難病連の会費 | | 20,000 |
| 会報(印刷費) | | 4,000 |
| 会報(通信費) | | 1,000 |
| 新春交流会(印刷費) | | 1,000 |
| 新春交流会(通信費) | | 2,000 |
| 新春交流会(講師謝礼等) | | 10,000 |
| 新春交流会(ボランティア交通費等) | | 10,000 |
| 新春交流会(宿泊代) | | 450,000 |
| 勉強会(講師謝礼等) | | 25,000 |
| 勉強会(ボランティア交通費等) | | 5,000 |
| 事務費 | | 10,000 |
| 予備費 | | 10,000 |
| 合 計 | | 795,000 |

5. その他

- ① 役員を選任について
- ② 代議員を選任について

1971年8月7日 第3種郵便物認可（毎月6回 1の日・6の日発行）

2011年12月7日発行 SSKA 増刊通巻第7447号

SSKA

ああるぴい

—◇ 編集後記 ◇—

1.

2月18日に津で同行援護などの勉強会を計画しております。

まだ詳細については決めておりません。

もし参加希望の方は24年1月ごろに担当の方にお聞きください。

2.

新春交流会ではいろんな疑問点にお答えしたいと、役員ははりきっていますので、日頃の疑問点を考えておいてくださいね。

3.

メールをされている方で、まだ支部長までメールアドレスを連絡していただいていない方は、是非連絡をお願いします。メールだと経費と時間が大幅に短縮されますので、ご協力をお願いします。

4.

新春交流会に、是非参加してください。

今年は宿泊を兼ねての新春交流会ですので

発行人：障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区砧6-26-21

編集：RP三重会報編集部 河原洋紀

〒515-0847

松阪市岩内町614

（電話・FAX） 0598-58-2664

（e-mail） hk2664@aqua.ocn.ne.jp

定価200円